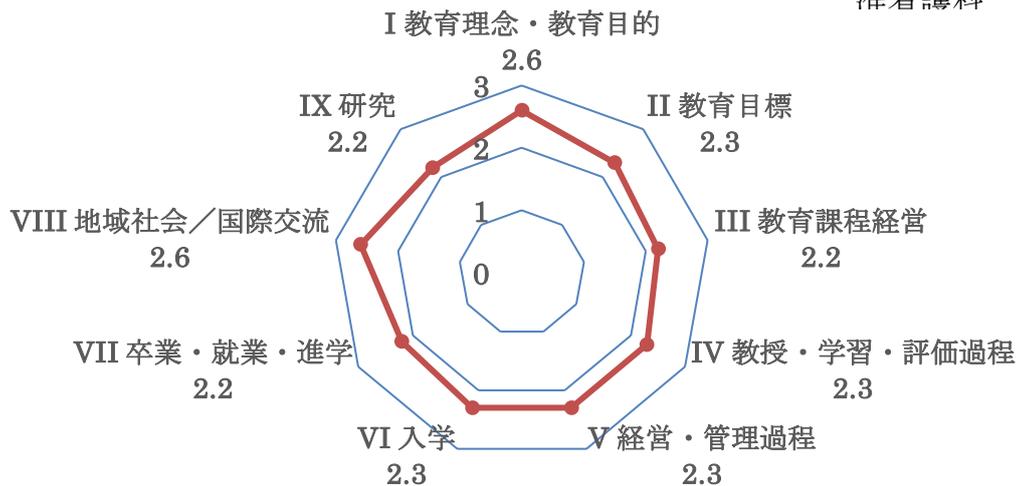


准看護科



令和6年度 評価の概要と今後の課題

I. 教育理念・教育目的

本校の教育上の特徴を示しており、学生の指針となるよう具体的に示すことができている。また、卒業時点において、もつべき資質を明示している。

II. 教育目標

教育目標は、教育理念・教育目的と一貫性があり、教育内容を網羅している。教育目標に沿った教育ができているのか評価するシステムの構築についてはまだ着手できていない。

III. 教育課程経営

指定規則、別表4に基づき、科目は法に遵守できている。単元の時間数も適切である。科目と単元の構成及び各ねらいについては生徒便覧に記載し、入学時オリエンテーションで説明している。新カリキュラムでの教育を受けた生徒が卒業し、2年経過した。新カリキュラムの評価を課題に挙げていたが実施に至っていない。急務の課題である。

令和6年度の教育・研究活動の実施については、以下の通りである。

教育・研究活動

日本看護学校協議会学会(オンライン)	1名参加
日総研 看護学生の学習を促す授業方法入門	1名参加
福岡県医師会第1回看護学校長・教務主任会議	2名参加
日本看護学校協議会 第1回教育研修会(オンライン)	1名参加
福岡県医師会看護師卒後研修会「看護教育研修」	1名参加
日本看護学校協議会 副学校長・教務主任会(オンライン)	1名参加
人権・同和教育研修会	1名参加
福岡県看護師等養成所運営に関する会議(オンライン)	3名参加

臨地実習については、98.4%が臨地での実習を実施することができた。実習施設でのクラスター発生や職員の罹患により、学内実習に変更になったこともあるが、実習施設と調整を行いながら可能な限り臨地での情報収集や学習、カンファレンスの実施など柔軟に対応していただいた。

ICTの活用については、教員間または教務事務との連携により実施出来てきている。生徒の安全対策として、総合保障制度、学生用Will保険に加入している。令和6年度の対応件数は3件であった。今後の課題としては業務の整備、効率化を行い、教員間で指導案の検討や授業参観などの機会を設け相互研鑽のシステムをつくることである。

IV. 教授・学習・評価過程

目標評価については、授業評価、実習評価、卒業時アンケートを実施している。授業評価は各教

員が自己の授業を振り返り授業改善に向けて取り組んでいる。卒業時アンケートは、集計結果を教員全員に周知しているが、結果の分析ができていない。今後、分析を加え、教育活動の評価活動につなげていく。

## V. 経営・管理過程

自己点検・自己評価を実施し次年度の目標へつなげるよう努力している。令和2年度より学校関係者評価を取り入れ、適正な学校運営・経営に努めている。

運営会議（オンライン4回）教務会議（1回/月）、進級判定会議（3回）、入学試験委員会（5回）である。4年ぶりに講師会、実習指導者会を対面で開催した。今後も講師や実習指導者と情報共有を行いながら共に育てる姿勢で生徒育成に携わっていく必要がある。学校将来検討委員会（10回）では、看護科の令和9年度以降の募集停止と准看護科の定数減（定員70名→40名）が決定し、学校経営としてひとまず方向性が決定した。学生生活への支援については、各種奨学金について周知し、対応している。スクールカウンセラーを配置し（非常勤）、生徒の相談を受ける体制は整えているが、令和6年度の相談実績は0件であった。

## VI. 入学

募集活動としては、学校訪問（のべ20校）、ガイダンス（2回/年）への参加、オープンキャンパス（3回/年うち1回は台風のため中止）を実施した。学校訪問は、大牟田市内とその周辺に絞って実施し、その他の各学校には電話による入試の告知を行った。しかし結果は、令和7年度も定員割れ（充足率32.9%）である。受験者数の減少により入学者選抜が厳しい状況が続いている。その中で、令和6年度より福岡県の外国人看護師候補者資格取得支援事業を受け入れている。令和6年度は7名、令和7年度は4名の外国人生徒が入学した。令和6年度生は全員、2年生へ進級することができた。令和7年度も昨年度の経験を基にサポートしていく予定である。

### 退学者数の推移

2020年度生	2021年度生	2022年度生	2023年度生	2024年度生
8名	7名	9名	9名	4名

2024年度生は2025年3月末現在の数

### 受験者数の推移

2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
37名	43名	43名	33名	24名

## VII. 卒業・就業・進学

福岡県准看護師試験結果は100%合格であり、令和6年度の目標は達成することができた。就職率は80%と未定者もいるが、就職した生徒の100%は大牟田市内に就職しており、地域医療を支える人材育成としての役割は果たしていると考えられる。進学率は50%（昨年は47.6%）、進学者10名のうち7名が本校看護科へ進学した。今後の課題として、卒業生の就業先での評価の把握や就業先との情報交換、調査等は実施していないため、就業先との連携を図りながら地域に定着し貢献していけるように支援して行く必要がある。令和6年度から受け入れている福岡県の外国人看護師候補者資格取得支援事業による7名の外国人生徒については、2年次となり長期間の臨地実習がスタートする。実習における患者や指導者とのコミュニケーションや日本語による実習記録など危惧されるところもあるが、サポート体制を整え支援していく。また、福岡県准看護師試験についても外国人学生を含む全員が合格できるよう、早期より試験対策を実施していく予定である。

## VIII. 地域社会/国際交流

養成所の情報提供については、ホームページや進学サプリーへの参画、SNS（インスタグラム）を通し情報を発信している。外国人学生の受け入れにより、必然的に国際交流が実践できており、日本人学生にとっても文化や言葉が違う学生との交流は多様性・他者理解につながっている。

## IX. 研究

令和6年度は研究活動に取り組んだ教員はいなかった。各教員が自分のスキルアップのため自己研鑽に努めるとともに職場環境においても支援する環境、雰囲気作りや時間の確保への配慮が必要である。

### 令和7年度 准看護科 目標

1. 新カリキュラムの評価と修正
2. 学生支援の充実 ～入学生を大事に育てる～  
外国人学生の支援と中途退学者の減少
3. 令和7年度福岡県准看護師試験全員合格

令和6年度目標評価

准看護師科

評価基準 A：計画通り達成できた  
 B：おおむね計画通り達成できた  
 C：計画通りできなかったところもあり十分でない  
 D：全く達成できなかった

1. 新カリキュラムの適正な運用
2. 学生支援の充実 ～入学生を大事に育てる～  
 外国人入学生の支援と中途退学者の減少
3. 令和6年度福岡県准看護師試験全員合格

目標	計画	実施状況（評価の判断理由）	評価
1. 新カリキュラムの適正な運用	①シラバスの作成・配布 ②カリキュラムの調整・評価・修正 ③実習要項の作成 ④各実習施設との連絡・調整 ⑤実習計画の実施 ⑥講義準備時間の確保	①チームズで順次シラバスを配布し学習に役立つように努めた。 ②講師と調整しながら運用できた。しかし、評価・修正は不十分である ③計画・準備が遅れ、その都度の作成となった。実習前には生徒及び実習施設へ配布できたが、次年度は年度内完成を目指す。 ④各実習施設と連絡・調整を図りながら準備することができた。 ⑤各実習施設と調整し実施することができた。しかし、準備不足や実習評価の分析が不十分であり、今後より良い運用に向け修正していく必要がある。 ⑥通常業務に追われ、準備時間の確保は困難であった。 年間計画の早期立案と中間評価・修正が必要。また優先順位を考えた実施計画が必要である。	B
2. 学生支援の充実～入学生を大事に育てる～ 外国人入学生の支援と中途退学者の減少	①外国人学生への支援 ②体調管理及びメンタルヘルスの充実（中途退学者の減少） ③ICTの活用	①交換日記などの日本語の文章作成支援。学習会や個別指導による学習支援などを実施。学校生活においても校内演習やグループワークなど日本人学生と交流する時間を徐々に増やしていった。福岡県医師会や勤務先と情報交換を行い。各方面からの支援体制を整えた。結果、日本語のスキルもアップし、全員が科目履修でき（R7,3月現在）、進級することができた。 ②毎日の体調管理シートによる体調管理及び感染予防対策の継続、生徒への注意・喚起に努めた。メンタルに問題がある生徒へは継続的に声をかけるなどのかかわりをもった。メンタルによる休学者は3名、退学者は1名であった。過去5年間の平均退学者数は8.2名であり令和6年度は6名と数字的には減少している。分析を進め、今後も継続して対応する。 ③チームズ（Web上のコミュニケーションツール）を利用し、資料・時間割の配布、講義アンケートや小テスト等タイムリーに実施できた。教務事務との連携ができ運用出来てきている。	B
3. 令和6年度福岡県准看護師試験全員合格	①1年生「学習習慣の定着」 ②2年生「県試験全員合格」 ・成績不良者への個別指導 ・模擬試験の活用と問題集の取組み	①科目平均は78.0点、低学年模擬試験の結果は偏差値47.0（前年度49.9）。提出物や見直し学習の状況などを把握し個別に対応しているが、学力不振のため1名が留年となった。未修得科目がある生徒も3名おり、支援方法の検討、目標達成への綿密な計画が必要である。 ②実習と関連づけ問題集の取り組み方法を変更、また実習後に確認テストを実施した。年3回の外部模擬試験のほか、月1回の模擬試験を実施し見直し学習を強化した。生徒の学習意欲に合わせ、勉強会をするなど個別対応に力を入れた。資格試験直前はさらに個別対応を強化し、継続的にかかわりを持ち、福岡県准看護師試験は全員合格することができた。今後、結果に対する評価・分析が必要である。	A